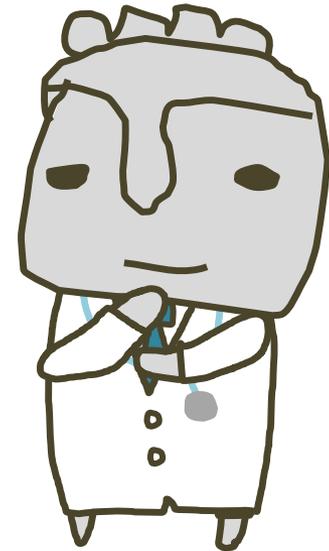


日本慢性疾患重症化予防学会 サマーセミナー 2022

2022年8月28日

ランチョンセミナー「GLP-1受容体作動薬：経口剤と注射剤の使い分け」
当院における経口GLP-1受容体作動薬の使用経験：
腎症3期以降



臼杵市医師会立コスモス病院 糖尿病・内分泌内科
近藤 誠哉



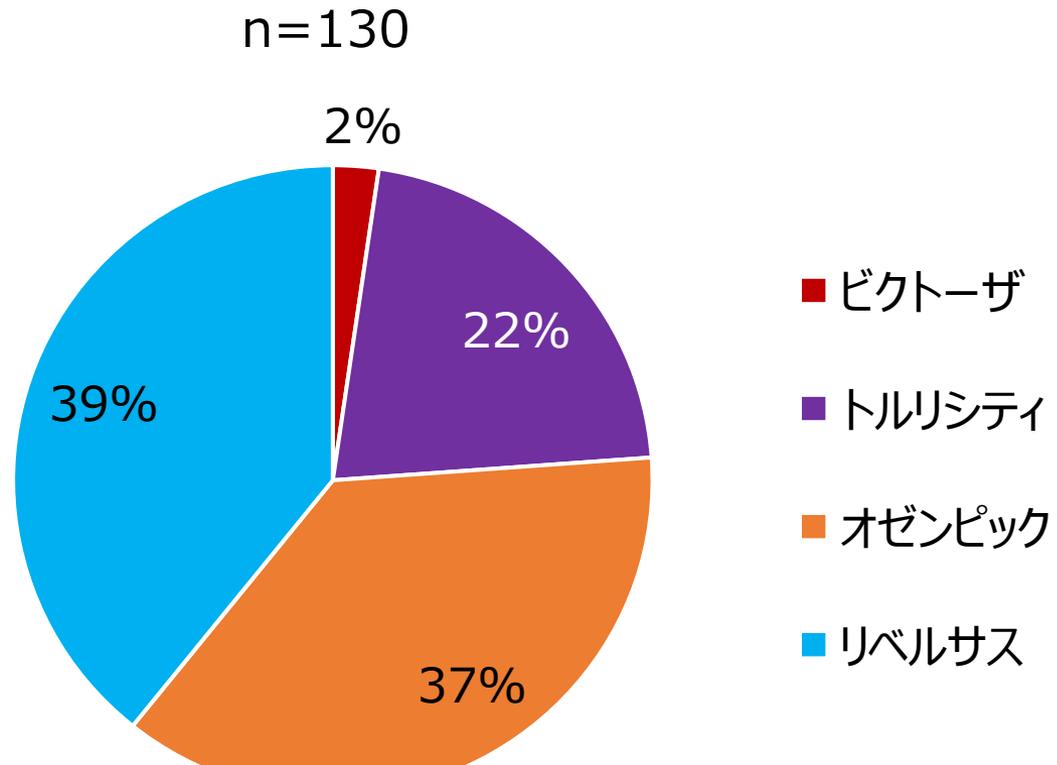
COI 開示

発表者名：◎近藤誠哉

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。

- GLP-1RA全般の使用状況
- 使用目的；肥満症と腎症を中心に
- 腎症病期別各GLP-1RAの投与内訳
- リベルサスの効果検討；新規／切り替え
- 進行腎症の症例提示

GLP-1RAの使用状況①

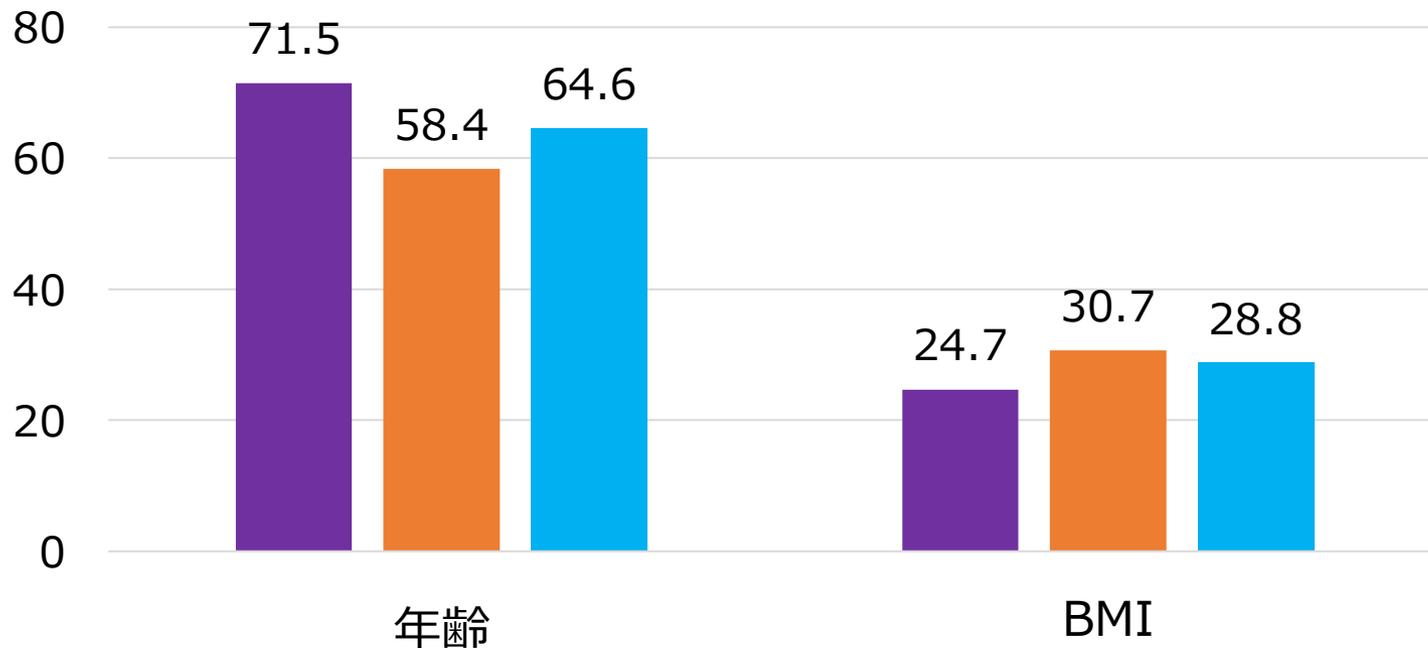


外来糖尿病患者の約4割に導入
約8割がセマグルチド

GLP-1RAの使用状況②

年齢、BMI

n=130



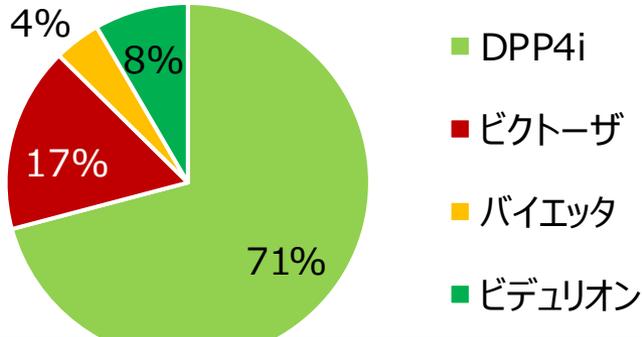
各

より若年で肥満度の強い患者に
セマグルチドを投与

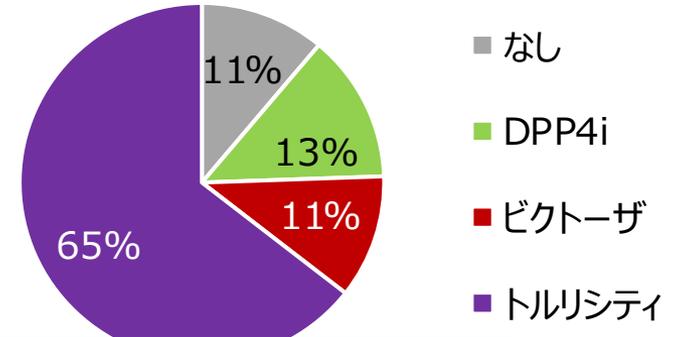
あり

各GLP-1RAの前治療薬

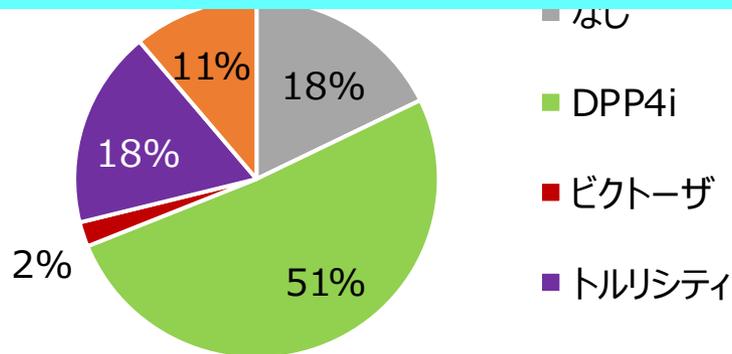
トルリシティ



オゼンピック



オゼンピックの7割はトルリシティからの切り替え
 リベルサスの7割は新規GLP-1導入

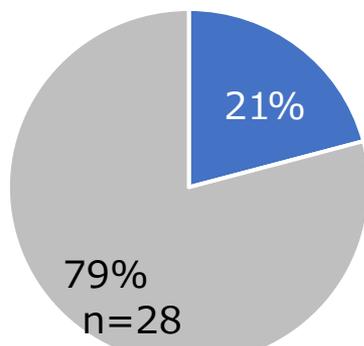


n=51

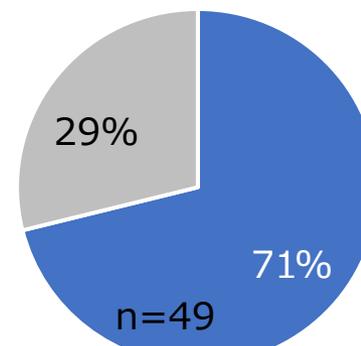
GLP -1RA使用目的①

体重減量（血糖管理、腎保護との重複含む）

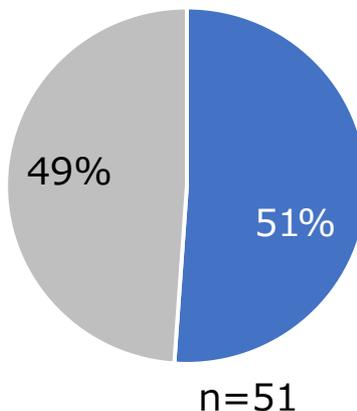
トルリシティ



オゼンピック

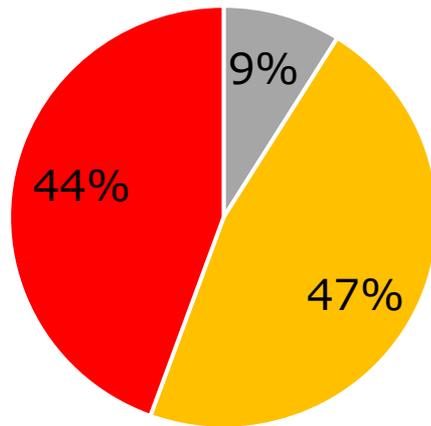


オゼンピックの7割は体重目的で導入



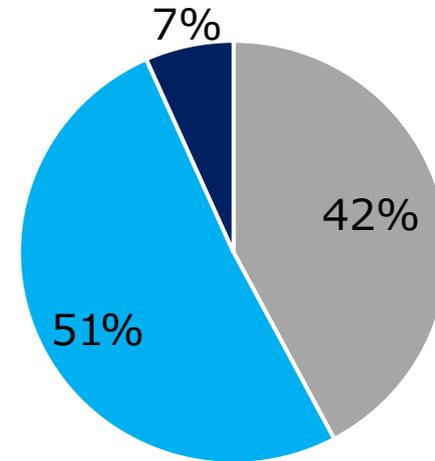
セマグルチドの維持投与量

オゼンピック



■ 0.25mg ■ 0.5mg ■ 1.0mg

リベルサス



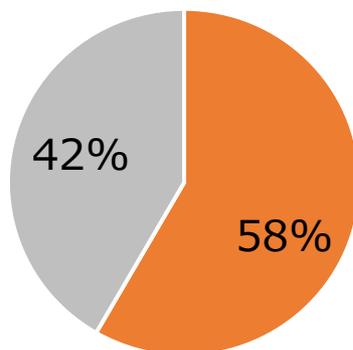
■ 3mg ■ 7mg ■ 14mg

オゼンピックは中～高用量が大半
リベルサスは低～中用量が大半

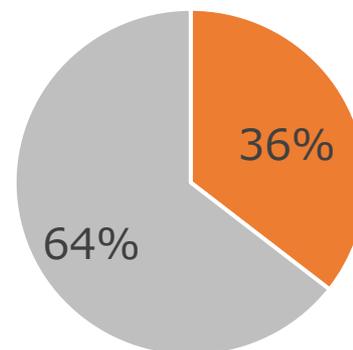
GLP -1RA使用目的②

腎保護（血糖管理と体重減量を含む）

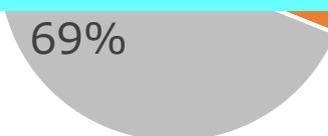
トルリシティ



オゼンピック

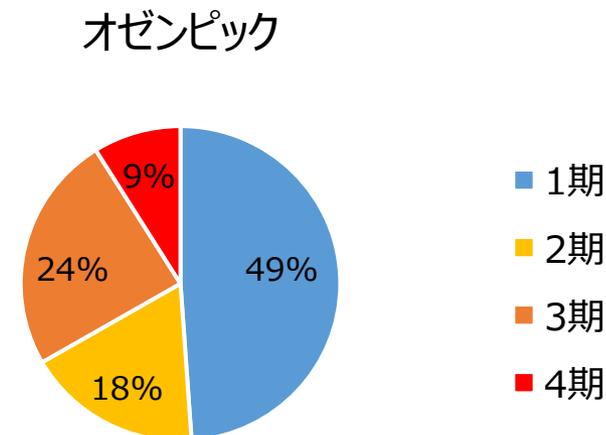
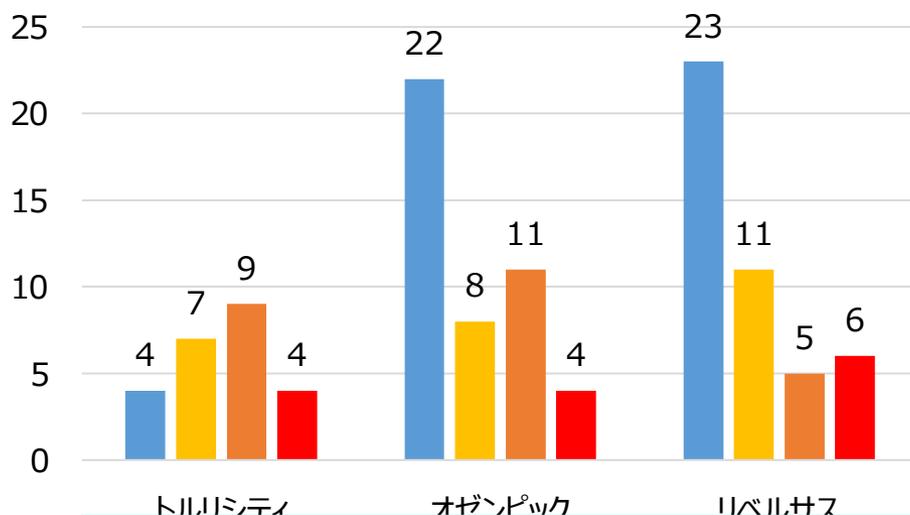


オゼンピック、リベルサスの腎保護目的での導入
は3～4割にとどまる
(トルリシティが検討)

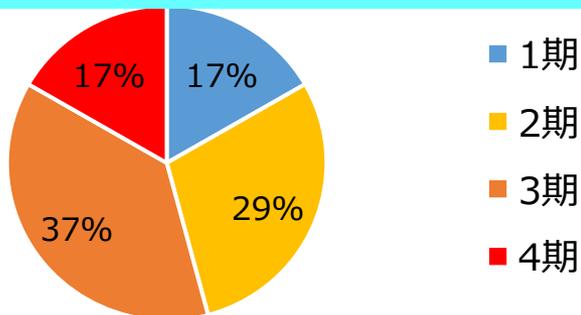


n=51

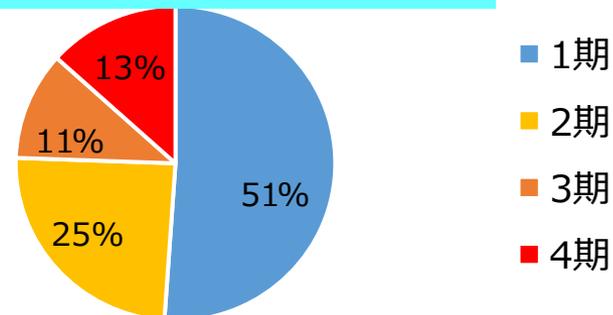
腎症病期別GLP-1RAの投与内訳



進行腎症に対しては、まだトルリシティの割合が多い
3期に限定すると、オゼンピックが多い



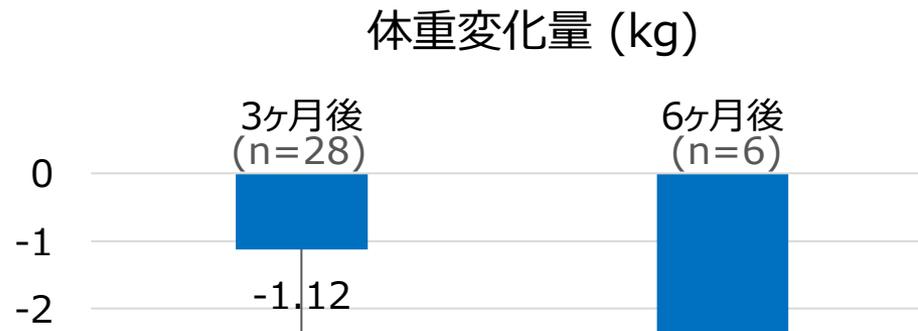
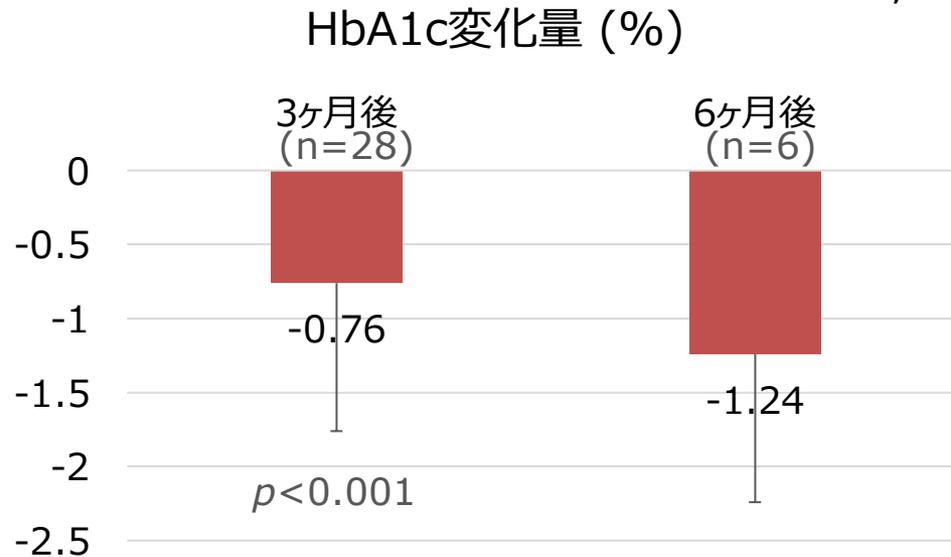
3期～54%(13人)



3期～24%(11人)

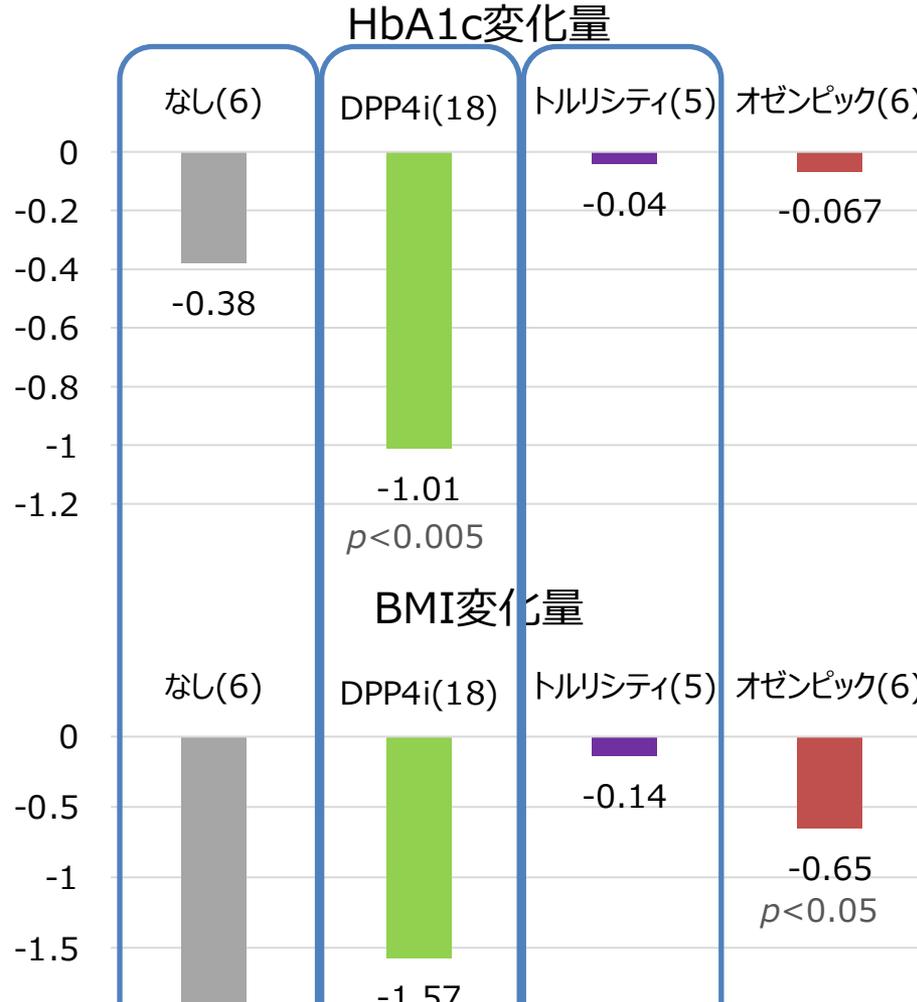
トルリシティ→オゼンピック切り替例の検討

n=37, 平均投与量 ; 0.40mg



オゼンピックはトルリシティに比し
血糖および体重管理いずれも改善

リベルサス 新規/切り替症例の検討



新規投与/DPP-4iからの切り替えで体重、血糖管理を改善
トルリシティ、オゼンピックからの切り替えでは同等維持

薬物吸収の特性による効果的薬剤指導

空腹時にリベルサス®を服用した場合



リベルサス®を空腹の状態です服用することで、胃から有効成分が吸収され、効果が発揮されます。

リベルサス®の服用前後に飲食をした場合



胃の中に食べ物や飲み物があると、有効成分が吸収されず、リベルサス®の本来の効果が発揮されません。

リベルサス®の服用方法



服薬指導が効果の明暗を分ける！

76歳 男性 2型糖尿病 高血圧症 ラクナ梗塞 DKD G4A3



まとめ

- ・リベルサスは優れた血糖低下および抗肥満作用を有する新規経口糖尿病薬であり、実臨床でGLP-1RAの導入がより容易となった。
- ・一方、効果においては個人差が大きい印象があり、その一因としては特殊な薬剤吸収が一因であると推察される。
- ・本薬剤の特性上その効果を最大限に発揮するためには、十分割効果的な服薬指導と服用順守が求められる。
- ・以上より、現時点では3期以降の進行腎症に対しては、効果の確立している皮下注製剤の使用が望ましいと考えている。